



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/9 (月)				スポーツの日			
10/10 (火)	+ 1,000	+ 14,000	+ 15,000	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M)		共通担保 (全店) + 10,000	日: 国際収支; 経常収支 (8月) 貿易収支 (8月)
10/11 (水)	トン	+ 3,000	+ 3,000		共通担保 ▲ 8,500		米: FOMC議事要旨 (9月19、20日開催分)
10/12 (木)	▲ 1,000	▲ 23,000	▲ 24,000	国債発行 (5年) 源泉税揚げ			日: 国内企業物価指数 (9月) 米: CPI (9月) 欧: ECB議事要旨 (9月会合分)
10/13 (金)	トン	+ 77,000	+ 77,000	年金定時払い			欧: I-O圏鉱工業生産 (8月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初2日、前営業日比▲1兆6,800億円の545兆5,200億円から始まった。その後大きな変動要因はなく、538兆700億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初2日、半期末に調達を控えていた先を中心に調達意欲が強まり、前営業日比+0.018%の▲0.044%から始まった。その後もビッドサイドの堅調な調達意欲を背景に上昇方向となり、4日積みとなる6日には▲0.016%で越週した。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に▲0.05%~▲0.01%の水準で出合いが見られた。なお、日銀は10月4日に臨時の長期国債買入オペ、10月6日に臨時の共通担保資金供給オペを実施した。

来週の予定は、国内では12日に企業物価指数 (9月)、海外では11日にFOMC議事要旨 (9月19・20日開催分) の公表、12日にECB議事要旨 (9月会合分) の公表などがある。

<レポ>

足許GCは週を通して△0.15%~△0.11%のレンジで取引された。短国の発行が重なった6日の取引でも水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年438~452回債、5年149~161回債、10年350~372回債、20年180~185回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約5,400億円で、週間償還額 (約4,600億円) を上回った。発行市場は、食品や鉄鋼等にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の22兆4,804億円から5日時点で24兆8,792億円と増加した。発行レートは概ね0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、約4,200億円となっている。発行市場は、営業日が少ないものの、期明けの調達再開による発行超を予想する。発行レートは、期内物を中心に0%近辺での出合いが中心となる一方、金融政策修正の警戒感等から期越え案件についてはレート水準が定まりにくい展開を予想する。12日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

5日の6M (1186回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1494% (前回債▲0.1462%)、平均落札利回り▲0.1674% (前回債▲0.1603%)、6日の3M (1187回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1955% (前回債▲0.2468%)、平均落札利回り▲0.2177% (前回債▲0.2685%) となった。

来週は13日に3Mに入札が予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。